

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400030		
法人名	株式会社 ベストビジネスコミュニケーション		
事業所名	認知症対応型グループホーム 結の郷		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町吉原1180-1		
自己評価作成日	平成28年1月27日	評価結果市町村受理日	平成28年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4792400030-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成28年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりのペースに合わせゆったりと過ごす事を中心としてケアができるように、入居者に担当職員をつけ入居者の希望を情報収集し共有し支援しています。ご家族様がいつでも気軽に来てくださるので日頃の生活の様子を職員が伝えるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は3階建ての民家を改造して開設した為、エレベーターや災害時対策に2階から階下までスロープを増設して利用者の生活環境を整備している。所在地の消防署の年2回の避難訓練への協力や、地域公民館でも災害に対する講習会、火災訓練が実施される等で、防災意識が高いことが実証されているが、事業所でも時々レク時間に「外へ出る事」を実践し、利用者の身体状況や職員の動きを検証する機会を持ち、災害時対応に活かせるよう取り組んでいる。地域住民との関わりが日常的にあり、子ども達を預かったり、差入があったり持ちつ持たれつとの関係性が育まれている。また、食事は3食事業所で調理し、利用者が思い思いのペースで食べられるよう、取り置きや要望時に配膳する等の配慮をしている。介護サマリーを書式化して整備し管理者等が対応できない状況でも、緊急時等の情報提供が可能な資料として活用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成28年3月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階フロア・2階夜勤待機場所近くに掲示し職員が入居者のケアに悩んだ時に施設理念をもとに話し合う事になっています。	理念は「利用者一人一人の尊厳を守る」等の6項目から成り、各階に掲示して周知を図っている。昨年は理念の共有が課題となった為、管理者は、職員ミーティングや日常のケア場面で理念を振り返る機会を持つよう取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方には進んで挨拶を交わし、行事の際には子供たちに声掛けしたりして招待しています。	地域出身者が多く、地域を散歩して挨拶を交わしたり、季節毎に野菜の差入を受ける等日常的に交流している。代表者が地域のスポーツ関連イベントに参加して、「認知症への理解」を啓発し、事業所の見学にも結びつけている。町民運動会へも毎年継続して利用者がゲームに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長自ら地域のイベントに参加し、子供たちのスポーツ(野球)を通じて地域の方たちと交流を積極的に行い、認知症の方の理解に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し施設での出来事を報告している。事故報告をし参加者から助言を頂き事故防止に努めている。	運営推進会議は偶数月で予定したが、今年度は職員等の体調不良等が重なり、開催が厳しい事を行政へも報告して3回の開催に留まっている。昨年度課題としたヒヤリハットや事故等の報告は改善できたが、議事録の整備は取組が遅れている。	運営推進会議の年6回以上の開催と、議事録の整備への取組が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度に関する相談やご家族様だけでは手続きが難しい場合一緒に出向き相談しています。いつも協力的に対応して頂いています。	行政側から「認知症への理解」等の目的で相談窓口の必要性について合議を呼びかけられ参加している。今年度町内にもグループホーム連絡会を発足させ、2ヵ月毎の開催としている。住民からの利用相談には包括や広域も交えて検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングを通じてスタッフ全員が身体拘束をしない事を理解して頂いている。玄関の施錠は防犯の為、夜7時から朝7時までとしています。	「身体拘束をしないケア」について重要事項説明書で謳っている。転倒防止センサーの設置を、センサーの音やケアに掛る時間等の意見を職員間で検討しているが設置は継続中である。職員間では言葉による制限も注意、「禁句」としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりからケアに対し困りごとはないか個別に相談しやすいよう管理者から声掛けています。どんな些細なことでも報告しあい、その時の状況、対応を話し合い再発防止に取り組んでいます。		

沖縄県(認知症対応型グループホーム結い郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員はまだ制度について学ぶ機会を設けていません。最近退去された方(現在入院中)に弁護士による保佐人がついていたので本人にかわって金銭管理、相談、手続等支援して頂き助かりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に説明をしご理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を置き、意見の収集に努めています。又ご家族様は良く来て頂くのでその都度職員は要望を聞き申し送りに報告し反映に努めています。	利用者の4人からは直に、家族には面会時や通院時に職員から声を聞くように心がけている。利用者の「花が好き」の声に応じて鉢植えを増やしたり、家族から「目を見て話して下さい」との意見には、利用者目線を合わせて声かけする等反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや食事会で職員の意見を聞き運営に反映できるように努めていきます。	職員の意見は毎月のミーティングや、代表との食事会等でも聞いている。管理者は、職員の表情や不安な様子、体調不良や職員間に相談等がある場合は個別に面談をしている。職員から「2回目の夜勤から一人体制では不安」の声があり、今後の体制について検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回昇給あり、職員の家庭の状況、体調に配慮し勤務シフトを調整しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会・講習会への参加希望があれば勤務調整に努めています。新職員に対しては慣れた職員・管理者がサポートし入居者ひとり一人のケアの仕方を説明しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成27年11月1日より北谷町内グループホーム連絡会を結成し今後職員参加を行い交流をし勉強会や認知症ケアの事例報告をし質の良いケア向上努めていきます。		

沖縄県(認知症対応型グループホーム結い郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴を把握し、本人本位のケアに心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様から性格、好み、これまでの生活の様子を聞き受け入れを行っています。又入居したばかりはご家族様が良くいらしてくるのでアドバイスを頂きケアにつなげています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を急がれた場合、空きがない場合は近隣の施設を紹介しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみ、テーブル拭き、調理の手伝いの作業は一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様は気軽に来ていただいているので本人の生活の様子を伝えるように努めています。行事には案内し参加して頂けるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の場所へ出かけたり、昔話やご家族の話に傾けるようにしています。	地域出身者が多く、日用品等の買物で利用している地域の店舗や外食先等へドライブ途中で立ち寄っている。利用者は務めていた学校に管理者と一緒に時々出かけ、子ども達との交流や教室に入る等で懐かしんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う者同士の席を工夫したり、レクリエーションを職員と一緒に行う事で皆で笑ったり、歌ったりして良い関係作りに努めています。		

沖縄県(認知症対応型グループホーム結い郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	平成27年10月に退去された方のご家族様と現在の様子や相談を行っています。又退去されたご家族様が気軽に施設に野菜を持ってきて会話を楽しんで帰られたりします。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、声掛けや傾聴で本人の思いや気持ちを確認できるように努め又気分転換に天気の良い日は散歩に出かけたりドライブに出かけたりしています。	利用者の発する「言葉」等を個別支援に結び付け、利用者から直に把握できない場合は家族等からの情報を参考にしている。利用者の「行こう」の言葉は「ここに居たくない」や、「あばー」は利用者の心配や不安な時の声、等思いを把握し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の他に御家族様からもこれまでの生活の様子を聞きそれをヒントにホームでの生活に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の様子を記録に記入し心身の状態を申し送り時に報告しケアに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に入居者の最近の様子や職員の意見を聞き介護計画に活かしています。	担当者会議に利用者や家族が参加して意見や要望を反映して個別計画を作成している。毎月のモニタリングや、3か月毎の生活リズム表を参考に計画の見直しを実施しているが、日常生活支援の一部が計画に位置付けられずにサービスを実施している。	利用者の日常生活ニーズに伴い実施しているサービス内容は、個別介護計画に位置付け、計画と実施が一致するよう期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の大切さを職員に意識してもらい職員は申し送りの際には、確認する事を徹底しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の状況の変化や要望に柔軟な対応ができるように、必要な時間帯に職員の勤務配置に努めています。		

沖縄県(認知症対応型グループホーム結い郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方からの野菜等持ってきてくれたり、近隣を散歩し挨拶を交わし関係を築きあげています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際はご家族様とご本人と一緒に定期受診に出かけていますが普段と症状が違う症状があれば一緒に行き症状の把握に努めています。	利用者は入居前のかかりつけ医を継続して受診し、家族対応を基本としている。利用者の状態に応じて職員が同行し、状態の変化等では情報交換もしている。個別に介護サマリーを整備し、急変時等の緊急時に備えている。また、利用者が個人契約している薬局とは薬の相談も図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には普段の症状、生活の様子を伝え変化があれば相談、報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはお見舞いに行き、病棟看護師や相談員と連携し症状の把握や退院に向けて相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に御家族に事業所の方針を説明し、症状に応じ主治医とご家族と相談しています。	重度化や終末期に向けた方針を明確にし、利用前に医療連携体制等について家族へ説明し同意を得ている。利用者の状態や急変に応じ家族等と話し合い、事業所で終末期の希望があれば対応する事を伝えている。日頃の健康管理は看護師を配置して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網は整備しています。訓練は職員が消防署・地域の救命訓練を受けたことがあります。定期的には行っていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署に届け出て消防士立会いのもと消防訓練を実施。公民館での災害に対する講習会・火災訓練に参加。スプリンクラー等の防災設備・発電機・食料などの備蓄をしています。	消防署の協力を得て、昼夜想定避難・自主訓練を実施している。地域住民の協力の必要性を感じて周辺にチラシ等を配布して呼掛けが参加は得られていない。レク活動にも避難訓練を取り入れ実践する等の試みをしている。災害時マニュアルや備蓄等も整備している。	

沖縄県(認知症対応型グループホーム結い郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応の仕方について気になるようなことがあれば十分に配慮するように申し送り時に伝えています。職員は目線に合った声掛けを行いように伝えています。	利用者一人一人の情報を基に生活リズム表で活動や支援内容を把握し、日常的には利用者の状態やペースに合わせて対応している。利用者の目線に合わせた声かけや声のトーン、利用者の歩調に合わせた歩行、意思表示の困難な方の見守り等個別に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で気持ちを確認し気持ちに沿った対応に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧したり、爪におしゃれをしたり、訪問美容カットを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に入居者の希望を反映するようにしています。調理の手伝い、片付け等と一緒にしています。	食事は職員が3食調理をし、利用者は、野菜の下準備や食器の片づけ等を職員と一緒にし、食事時間も職員と一緒に食べている。献立には利用者・家族の希望や好み等も取入れ、近隣からの野菜や果物の差入も盛込んでいます。食事時間は設けているが、個々の体調等に合わせ対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取を記載し、おいしく頂けるようにバランスを考え工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、入れ歯の洗浄は毎食後支援しています。		

沖縄県(認知症対応型グループホーム結い郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握しできるだけトイレでの排泄に支援しています。	日中は個別に排泄パターンを把握して、声かけ誘導や歩行介助でトイレでの排泄を支援している。夜間は睡眠や安全観察と共に、尿パット交換やポータブル、トイレでの排泄の状況等を時間毎に記録して支援に繋げ、健康管理や転倒防止の一助にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、乳製品、水分摂取や適度な運動を心がけ必要に応じ主治医に受診の際相談し下剤でコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中に入浴を基本としていますが入居者の希望に沿って午後に入ることもあります。入浴に不安がある場合は二人介助を行い安心して入れるように対応しています。	入浴日は基本的には設定しているが、利用者の希望する曜日や時間帯にも対応している。利用者の好みやこだわり、支援方法をアセスメント時で把握し、同姓介助を基本に支援している。入浴拒否の方には、2人体制や慣れた職員と交代、歌を歌いながらの支援する等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で休みたい方やソファで休みたい方がいますので、職員は支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬セットを行い職員は服薬内容を理解して頂くように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きな方、散歩が好きな方、歌が好きな方に職員は合わせた生活に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩やドライブ、買い物に出かけています。	職員は、歩行困難な方でも車いすで周辺地域を散歩したり、近くの商店やコンビニで買い物ができるよう支援している。利用者全員ではないが遠出のドライブやイルミネーション見学等、外出している。花や植物が好きな方は、ベランダに出て気分転換を図っている。	

沖縄県(認知症対応型グループホーム結い郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーやお店と一緒に職員が付添い、買い物を楽しんだりする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればご家族に電話したりしてしています。手紙のやり取りは今の所行っていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた正月・クリスマスの飾りつけを行っています。エアコンや加湿器を利用して居心地良くして頂けるように工夫しています。	共用空間は居間を中心に、整容スペースやトイレ、浴室と台所等が配置されている。居間は掃き出しで開放感があり、ガラス戸越しに草花や景色を眺められ、ソファが指定席の利用者、洗濯物をたたむ利用者等、各々の場所で過ごしている。玄関等の勾配にはスロープを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士の席を工夫したりソファでくつろげるように工夫に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染の物を持ち込んでもらい居心地の良い生活を送って頂けるようにしている。	利用者の全居室は建物3階に配置し、ベッドやタンスが備え付けられている。居室には利用者の馴染みの物や寝具類、家族や孫の写真等が飾られている。ベッドは入居時に利用者の希望や思いに沿った位置に置くが、利用者の身体的、精神的な面等も考慮し位置を変更することもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの掃除、洗濯たみ、家事の支度が安全に出来るように職員と共に出来るように努めています。		